Vent

音楽教育 ヴァン vol.42

フォトエッセイ
石川直樹

レポート
音楽劇『泣いた赤おに』
備前市文化事業鑑賞会
子ども国際交流音楽祭 交流コンサート

連載
教科書トリビア　第3回「製本」

参考楽譜
器楽合奏『優しいあの子』
（作曲：草野正宗／編曲：千田鉄男）

KYO-GEI

PHOTO ESSAY

フォトエッセイ

写真・文：石川直樹
Photo & Text: NAOKI ISHIKAWA

ヒマラヤでは宇宙を強く意識する。特に、夜。昼間の強烈な日差しと酸欠でぼやけていた視界には、夜の月明かりがやさしい。宇宙から何万光年という気が遠くなるほどの長さを旅してきた星々の光を、自分は全身で受け止める。ぼくは宇宙を旅することなしに、薄い空気のなかでもがきながら、成層圏の端っこに触れる。

こうした体験によって、自分自身の、そして人間の小ささを知り、生かされているということを、決してきれいごとではなく自然と感じられるのがヒマラヤという場所だ。

月の下で眠り、朝日と共に目を覚ます。こうしたヒマラヤでの生活こそが、ぼくにとっての未来そのものである。それは時が流れ、地球がまわっていることの証し。すなわち、自分は今を生きている。

石川直樹

1977年東京生まれ。写真家。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。『NEW DIMENSION』（赤々舎）、『POLAR』（リトルモア）により、日本写真協会新人賞、講談社出版文化賞。『CORONA』（青土社）により土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』（集英社）ほか多数。最新刊に、ヒマラヤの8000m峰に焦点をあてた写真集シリーズの7冊目となる『Gasherbrum II』（SLANT）、『まれびと』（小学館）、『EVEREST』（CCCメディアハウス）など。都道府県別47冊の写真集を刊行する『日本列島』プロジェクト（SUPER LABO×BEAMS）も進行中。
http://www.straightree.com

風に寄せて

遠い昔、人々は天空に輝く星たちに宇宙の調和と秩序を見いだし、その調和と秩序が音楽と融合したという話を読んだことがあります。沈黙の夜空にどんな響きを聞いたのでしょうか。

人は頭の中で色々な感覚と結びつけながら音声を解釈しているといいます。視覚的なものだけでなく、香りや味までも“きく”と表現することがあるように、人は実に多様な感覚をもって聞くことができるのでしょう。

“傾聴”が求められる時代にあって、耳を傾けることはすなわち、相手の心に寄り添うことにも通じるのだと思います。

ヴァンという言葉に願いを託し、多くの方々の力をいただきながら、さまざまな思いに耳を傾けてきました。これからもしなやかな風のように、たくさんのメッセージをお届けしていくことができたら、これほど幸せなことはありません。

市川かおり（教育芸術社 代表取締役社長）

＊ヴァン＝“vent”はフランス語で「風」を意味します。

Contents

02 フォトエッセイ
石川直樹

05 授業者に訊く１
森みゆき（尚絅大学短期大学部 准教授）、山﨑浩隆（熊本大学 准教授）、
佐土原智彰（熊本市立龍田小学校 校長）、岩下 学（菊陽町立武蔵ヶ丘小学校 教諭）

10 授業者に訊く２
高村直子、江見智子（洞峰学園つくば市立谷田部東中学校）

15 レポート１
音楽劇『泣いた赤おに』

16 レポート２
世代を超えて音楽を楽しむ
備前市文化事業鑑賞会
「音楽の教科書から選ぶ！ 市民が聴きたい曲ランキング」

18 レポート３
子ども国際交流音楽祭 交流コンサート

20 Kyogei Presents
音楽診断 あなたのタイプは？
［第７回］今年のおすすめ名曲編（監修・解説：山田治生）

22 Information

24 参考楽譜
器楽合奏『優しいあの子』

28 エッセイ
新・音から広がる世界［第２回］藤原道山

30 教科書トリビア［第３回］「製本」

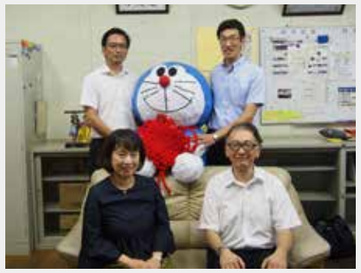
＊本誌に記載されている職名は令和元年12月現在のものです。

『ドラえもんのうた』を体を動かしながら歌う龍田小学校の子どもたち

授業者に訊く①

今回の「授業者に訊く」では、通常とは異なるユニークな実践を２つご紹介します。１つ目は、熊本市立龍田小学校と中国・上海市の洋涇（やんじん）実験小学が行った「スカイプを用いた小学校音楽科における国際交流」です。４年生の子どもたちが音楽室の大きなモニター越しに笑顔で交流し、充実した学習が展開されています。このプロジェクトを推進された４名の先生がたにお集まりいただき、お話を伺いました。

森みゆき（尚絅大学短期大学部 准教授）、**山﨑浩隆**（熊本大学 准教授）、
佐土原智彰（熊本市立龍田小学校 校長）、
岩下 学（菊陽町立武蔵ヶ丘小学校／元熊本市立龍田小学校 教諭）



後列は佐土原智彰先生、岩下学先生、
前列は森みゆき先生、山﨑浩隆先生

本時の授業の位置付け

スカイプを用いた小学校音楽科授業における国際交流

森みゆき先生（尚絅大学短期大学部）の研究の一環として行われた実践です。小学校教諭の経験をもつ山﨑浩隆先生（熊本大学）も企画から携わり、日本の龍田小学校と、中国の洋涇（やんじん）実験小学が実践校となりました。２度目となる今回の交流授業は、龍田小学校の４年生のうち１クラス（担任：岩下学先生）が対象となり、音楽科の授業（１時間）の中で行われました。画面を通して実際に交流した時間は25分間でしたが、交流授業の準備として、事前に歌やリコーダー、英語や中国語を学習しています。

授業の流れ

	学習の内容、学習活動
導入	・洋涇（やんじん）実験小学の挨拶、アニメソング『崖の上のポニョ』を歌う。 ・龍田小学校の挨拶、アニメソング『ドラえもんのうた』を歌う。
展開	・洋涇実験小学からのサプライズとして、現代的な民族舞踊を披露する。 ・龍田小学校からのサプライズとして『Happy Birthday to You』をリコーダーで演奏する。 ・龍田小学校と洋涇実験小学が同時歌唱で『It's a Small World』を歌う。
まとめ	・感想を発表し合う。

他教科に広げる国際交流授業

アニメソングで縮まる距離

Vent（以下、V）： このプロジェクトは、2017年に初回、そして今回は２回目の実践となりましたが、どのように企画されたのですか？

森： 発案は私です。テレビ番組の生中継を目にし、スカイプを用いて授業ができないかと思い付きました。そこで、山﨑先生に相談したところ、多くのかたがたの協力を得ることができ、実現にこぎつけました。

山﨑： 始まりは４年ほど前でしたね。

森： はい。当時は実践例が全くなく、手探りの状態でした。今ではスカイプでの国際交流は国内でも少しずつ増えてきましたが、大半は相手が英語圏。しかし、英語圏の国が相手では、日本の子どもたちは「英語を学ばせてもらう」というスタンスになってしまう。それは避けたかったので、お互いが英語以外の母語をもつアジア圏の国と交流しようと思いました。子どもたちが平等に違和感なく交流できるよう、お互いの学校を会場にしました。

山﨑： 当初は、どの学校のどの教科の時間に国際交流の授業を行うのかがなかなか決まりませんでした。熊本市内の小学校のクラブ活動でやってみようという話にもなりましたが、震災の影響で実現できなくなってしまって。その後龍田小学校を紹介され、岩下先生のクラスで実践することとなったのです。

森： 2017年の初回は、上海の児童が３年生で、熊本の児童は５年生でした。熊本にいらしたことがある中国の先生が、たまたま洋涇実験小学の３年生の担任だったからです。

岩下： 今回はどちらも４年生の児童でした。

佐土原： 日本の指導計画において、３、４年生というのは、国際交流を試みるのにちょうどいい学年です。３、４年生は外国語活動、５年生は本格的に英語を学びます。また、社会科では５年生で日本の国土、６年生で歴史を勉強します。３、４年生で国際交流の経験をすることにより、国内外に向けた意識が生まれ、学習の動機付けにもなると思います。

V： 授業ではアニメソングが取り上げられて、子どもたちは楽しそうでした。

森： 上海と日本、どちらの子どもたちも知っている歌を歌い合えば、距離が縮まると思ったのです。

岩下： ジブリの曲は前回も今回も取り上げました。

佐土原： アニメソングは楽しいから、子どもも学習に向かいやすいですね。

森： 相手が自分の知っている歌を歌うと「あ、そのメロディー！」と言わんばかりに、ぐっと近付く瞬間がありました。私は交流授業のとき洋涇実験小学にいたのですが、子どもたち40人がみんな素直な目をして龍田小学校の子どもたちを見ていて……、その純粋な目に涙が出ました。音楽の力ってすごいんだなと思いました。

山﨑： 最後に両校で歌った『It's a Small World』は、今回の中でいちばん感動しました。

岩下： 子どもたち、とてもがんばって練習してきたんです。

山﨑： 龍田小学校の子どもたちの表情や声の出し方を見ていると、画面越しでも一緒に歌っている意識を強くもっているように感じました。

森： 洋涇実験小学の子どもたちもです。最後は陳校長先生まで盛り上がって、私が洋涇実験小学の子どもたちにプレゼントしたくまモンのぬいぐるみを持ち、前に出ていってしまって（笑）。

岩下： 佐土原校長も前に出ざるを得なくなって、両校長の競演になっていましたね。予定にはありませんでしたのに（笑）。

佐土原： なぜ私はドラえもんを持って踊っているんだろうと思いました（笑）。

森： でも佐土原校長先生が出てきた瞬間、洋涇実験小学の子どもたちも「キャー!!」と喜んでいましたよ（笑）。

外との交流で内側に目を向ける

V： 音楽科の強みとは、どのような点でしょうか？

森： 「言葉が要らない」ことでしょうね。音楽はいろいろな教科に派生させることができます。異文化理解への導入として提案できたらいいなと思います。

佐土原： 国際交流の取っ掛かりとして、音楽は力をもっています。音にのった言葉は、ただ話すよりも印象的な「表現」になる。表現で相手とつながることはすばらしい。私は社会科が専門ですが、６年生は国際理解として日本と他国との違いをしっかり学習し、さらには違いを認めて尊重することを学びます。しかし、音楽科では「違い」だけではなく「共通点」に気付くこともできるわけです。

○ 森みゆき（もり・みゆき）
尚絅大学短期大学部 准教授

○ 山﨑浩隆（やまさき・ひろたか）
熊本大学 准教授

○ 佐土原智彰（さどはら・ともあき）
熊本市立龍田小学校 校長

リコーダーで『Happy Birthday to You』を演奏

くまモンを持った
洋涇実験小学校長先生に
応じる佐土原校長先生

○ 岩下 学（いわした・まなぶ）
菊陽町立武蔵ヶ丘小学校 教諭（元熊本市立龍田小学校 教諭）

場所は音楽室で行われた。モニター左側は洋涇実験小学、右側は龍田小学校が映し出されている

岩下：国が違っていても子どもたちは、共通点を知れば驚きますし、食いつきもいいですよね。龍田小学校の子どもたちは、洋涇実験小学の子どもたちの英語の語学力のレベルや出し物に驚いていました。

佐土原：龍田小学校の子どもたちは、最初は洋涇実験小学の子の英語のスピーチに圧倒されて、固まっていましたが、アニメソングを歌うのを見てからは「なんだ、中国の子も私たちと同じでアニメが好きなんだ」と実感して、みんな笑顔になっていました。

岩下：交流授業のあと、子どもたちは英語と中国語にとても興味をもったようで、通訳のかたにも積極的に話しかけていました。

佐土原：通訳のかたへの接し方も交流後に大きく変わり、中国に対する距離が縮まったように感じます。

岩下：子どもたちの感想は「中国に行ってみたい」「上海に行ってみたい」など、外への関心をもつものが多かった一方、洋涇実験小学の民族舞踊を見たことで「日本のものなら何を発表できるのか」と書いた子どもが数人いました。

山崎：まさに期待していた反応です。外に向けて発信したとき、今度は「自分たちの文化は何だろう？」と考えてくれたらと思っていました。異文化理解はナショナル・アイデンティティを生み出します。

岩下：その気付きが主体的な学びになると思います。「熊本市はこうだよ」「私たちの学校はこうだよ」とつながり、「じゃあ私は？」「僕は？」と個々のことまで考えていくことができれば、子ども自身のやりたいこと、学びたいことが明確になってきます。

経験が意欲につながる

佐土原：今後、休み時間や授業の少しの時間に、スカイプをつないで会話を楽しむような機会があってもいいなと思います。

岩下：そのような日常的なコミュニケーションは大切だと思います。社会で何かを達成するためには、必ず相手がいる。そしてその相手には、日本語が通じないかもしれない。「英語を勉強したい」のではなくて「英語は必要なんだ」という雰囲気を教師がつくる必要があると思います。

森：「しゃべりたい」と思える気持ちは大切ですよね。

岩下：ええ、子どもたちのモチベーションを高めてあげたいです。

森：私自身、大人になって海外のかたとの交流の場で「やっぱり語学って必要だな」と実感したことがあります。だからこそ、子どもたちには自然に「相手の話していることを理解したい」と感じて学んでほしいと思うんです。

洋涇実験小学の子どもたちに拍手を送る龍田小学校の子どもたち

中国の民族舞踊を披露する洋涇実験小学の子どもたち

山崎：英語は、学校の学習だけでは子どもたちのモチベーションがなかなか上がりません。実際「他国の人に言葉が通じた」などの経験が、次の意欲につながるわけです。音楽の授業でも黒板に向かって歌うこともありますが、聴いてくれる相手が実際にいる場を教師が設定することで、子どもたちは表現をしている実感をもちます。

V：今後のスカイプ交流授業の構想はありますか？

山崎：これまでに国内で行われてきた実践の多くが、単発で終わってしまっています。せっかく自分たちの文化に目が向いても、1度きりだと次に広がっていかなくなってしまう。深まりが出てくるためには、学年1回ずつで積み重ねるとか、あるいは年間2回とか、定期的に行うことが理想ですよね。

森：日常の中で気軽にできるモデルプランを作れたらいいなと思っています。

佐土原：カリキュラムとして組むのもおもしろいですが、例えばテレビのスイッチを入れると相手の学校の様子がパッとライブで映り、「少し話そうよ」「今から歌うから聴いて！」といった手軽さも必要です。

山崎：日本のICT教育の遠隔授業と同じように実践できたなら、飛躍的に教育の幅が広がりますね。

佐土原：今回、龍田小学校は音楽会の様子を映そうかと考えましたが、日程が合いませんでした。次はぜひ音楽会のライブを実現させたいと思います。

森：中国は9月が新学期だから日程上難しいのですが、次年度ぐらいに実現できたらいいなと思います。音楽会なら保護者のかたがたにも聴いていただけますから。今日本では、中国に対して好意的でない感情をもつ人もいらっしゃいます。大人のかたにも子どもたちのやり取りをご覧いただき、交流を実感していただきたいのです。

岩下：音楽で人の心をつなぐのに、国は関係ありませんからね。

森：折り紙や習字、日本の文化も紹介したいですね。習字やお箏は元をたどれば中国のものですから、子どもたちもさまざまなことを感じるでしょう。

佐土原：音楽会以外でも、例えば龍田小学校では4年生は4クラスあるので、各クラス1つずつ違う言語、4カ国と交流させていただけるとうれしいですね（笑）。できれば全て違う大陸で。

森：壮大ですね、いいなとは思うんですけれど（笑）。どうしても時差の問題が出てきてしまうんです。時間帯が夜になってしまう。

佐土原：子どもたちが夜学校に来られるアイディアは1つあります。PTA活動として、保護者同伴で出てきてもらう。

岩下：学年レクリエーションに入れ込んでしまうわけですね。

森：夜の学校、子どもたちは喜ぶでしょうね（笑）。

佐土原：やろうと思えばアイディアはあるから、時差も克服できることでしょう。

国際化社会において必要な教育とは

V：今回の交流授業を終えて、子どもたちの未来についてどのようなことを思いますか？

岩下：このように探求活動を1つに定めた実践は、さまざまな教科につながる可能性を秘めています。今後、カリキュラムマネジメントの中に、どのようにその探究活動を組み込んでいくかが課題です。そして今回のように、子どもたちがとても夢中になったことを、教師がどう評価していくべきかをしっかり考えたいですね。

山崎：世界では「STEAM教育」の取り組みが進んでいます。交流授業からの発展として、子どもたちが自分たちの学級や学校、地域を紹介するスライドを作り、BGMも使用してプレゼンテーションのための映像をつくる、などもできますね。それをまた他国の子どもたちに見てもらって、メールやスカイプでやり取りができたら、広がっていくのではないでしょうか。会話での交流、テキストでの交流、そして音楽での交流など、さまざまなコミュニケーション手段をつくっていくことも教師には必要です。

『It's a Small World』を同時歌唱で歌う

佐土原：国際化社会が進むにつれて、物事の全体に対する理解を深める必要を感じています。例えば社会科の「工業」において、私たちは細かな知識は暗記してきました。だけど他国の人に「日本の工業ってどんな特徴があるの？」と問われたときに、広い視点で語れない。歴史も同じく「明治時代ってどんな時代？」と聞かれても分からない。物事を広い視点で語れる大人になってもらうには、教師はただ「教える」のではなく、「育てる」という観点がより大切になってくると思います。

森：このスカイプ交流授業は、単発で終わらせちゃいけないと思いながらも、最初は正直、ここまで広がるとは思わずに始めました。「相手を知り、相手によい感情をもつ」。子どもたちにはそのような経験をしてほしいだけでした。これからさらに10年経てば、スカイプなど画面を通した通信は当たり前になっているでしょう。その中で、交流授業も当たり前にできているように、私ができることをやっていきたいと思います。

V：ありがとうございました。

ア カペラのテンポを合わせるために肩を組みながら歌う生徒たち

授業者に訊く②

２校目は、連携型小中一貫教育を実施している洞峰学園つくば市立谷田部東中学校を訪ね、２つの研究授業を参観しました。授業の内容は、８年生(中学２年生)の「ア カペラによる響きの美しさを味わいながら合唱しよう」と９年生(中学３年生)の「３年間の思いを込めて合唱しよう」です。対談では、課題解決型の授業展開について、他教科との関連も含めてお話を伺いました。

授業者①：高村直子（洞峰学園つくば市立谷田部東中学校 教諭・８年生の授業を担当）
授業者②：江見智子（洞峰学園つくば市立谷田部東中学校 教諭・９年生の授業を担当）
聞 き 手：内田有一（上野学園大学短期大学部音楽科 教授）

左から内田有一先生、高村直子先生、江見智子先生

授業の流れ

8年生(中学２年生)
「ア カペラによる響きの美しさを味わいながら合唱しよう」※
教材：『翼をください』
（山上路夫 作詞／村井邦彦 作曲／鶴原勇夫 編曲）

学習の内容、学習活動

1. 前時の確認をする。
○ グループごとに話し合った強弱の変化や速度の設定を確認する。
2. 本時の学習課題を確認する。
   ア カペラの響きを仲間とともに創り上げよう。
3. グループごとに曲にふさわしい歌唱表現を目指して練習する。
○ ア カペラのよさを生かすためにはどのような表現の工夫をしたらよいか、意見を出し合う。
○ 入り方や終わり方について、どのように合わせるとよいか工夫する。
4. グループ発表する。
○ 他のグループの演奏を聴き、相互評価する。
○ 効果的に表現できた要素などを取り上げ、視点を明確化する。
5. 本時のまとめをする。

9年生(中学３年生)
「3年間の思いを込めて合唱しよう」
教材：『手紙 ～拝啓 十五の君へ～』
（アンジェラ・アキ 作詞・作曲／鷹羽弘晃 編曲）

学習の内容、学習活動

1. 前時の確認をする。
○ 前時にパートごとで行った曲の構成について再度確認しながらパート練習を行う。
2. 本時の学習課題を確認する。
   歌詞の内容や想いを聴き手に伝えるために、創意工夫して合唱しよう。
3. 各グループで曲に込められた作詞・作曲者の想いを考えながら、歌詞の内容に合わせて曲想がどのように変化しているかを捉える。
4. 各パートで歌い方を工夫しながら練習する。
5. グループで発表し、パートごとの練習を生かした合唱をする。
6. 本時のまとめをする。

※本研究授業は、アカペラ教育プロジェクト1.0の支援により行われました。
アカペラを授業で実践されたい方やご興味のある方は、下記ホームページよりお気軽にご相談ください。
「アカペラ教育プロジェクト1.0」 https://acappella-education.jp

「知識・技能」を活用した課題解決を目指して

ア カペラのよさを生かして歌う
８年生(中学２年生)

内田：今日の授業は、生徒がもっている「知識・技能」を使って課題を解決していくことがテーマでしたね。「知識・技能」を活用しながら「思考・判断」をして、課題解決をしていく。それには「主体的に学ぶ態度」も必要です。授業を終えられて、これらの観点からどんなことにお気付きでしょうか？

高村：「知識・技能」の活用という点では、音楽の要素や曲の構成を知り、パートの役割を押さえて、何がこの曲のよさにつながっているのかを皆が共有するのが第一段階です。第二段階は、強弱やテンポ、ハーモニーなど、何をどのように工夫をするとこの曲がより引き立つのかを考えて、課題を解決することですね。今回の授業で扱った『翼をください』は皆よく知っている曲ですけれど、それを発展的なア カペラの学習にして、課題を解決しながら完成させていくところにおもしろさがあったように感じます。

内田：ア カペラは伴奏がないので、音程やテンポをどうやって共有するか、頼るところがありません。それらは自分たちでつくり出すしかないので、「こんなふうに体を揺らしてみよう」「肩を組んでやってみよう」などと生徒自ら工夫していましたね。

高村：はい。「これだとうまくいかないな」「こうしたらよいのではないか」などと試行錯誤しながら、課題解決に取り組んでいました。

内田：大学のア カペラサークルでも最初はテンポが合わないんです。だから、お互いの肩をトントンたたきながら練習するそうです。大学生がやっていることを中学生が自分たちで編み出した。つまり、自分たちのもっている力で課題解決をしたということですね。

高村：他にも、パートの役割について考えた際、「ベースがテンポ感をつくっていく」と書いているグループがありました。「主旋律を支える」という役割と「テンポを支えて前に進めていく」という役割があると。ベースは常に１拍目を押さえないといけないので、テンポに対する自覚が生まれたのだと思います。

内田：「こうしてみよう」とアイディアを出し合い、実際にやってみて「これはいいぞ」と実感すること。音楽科が生涯学習に結び付くためには、こうした音楽経験がとても大切です。そのために「知識・技能」を活用するのですね。テンポ以外には、どんなことが難しかったでしょうか？

高村：やはり音程です。今日よりも少人数のグループで取り組んだクラスは、主旋律がきちんと歌えず全てのパートが混ざってしまったり、ハーモニーが出せなかったりしました。内田先生にご助言いただき、今日はグループの人数を増やしたところ、主旋律がしっかりと歌えて、そこに飾りの旋律や支えのベースが入り、ずいぶん歌いやすくなったようです。

内田：生徒たちの思考力や判断力を促すために、他に何か工夫されたことはありますか？

高村：ア カペラに取り組むにあたり、教科書の『ア カペラの合唱曲』のページを使って導入を行ったんです。まず、４曲の異なるア カペラを聴かせてみて、それぞれの特徴を聴き取るところから始めました。賛美歌風だったりゴスペル調だったり、音色にも違いがありますよね。それぞれの特徴を捉えてから、ではこれら４曲に何か共通点があるだろうか？ と

各パートの役割を確認する

○ 内田有一（うちだ・ゆういち）
上野学園大学短期大学部音楽科 教授

投げかけました。農作物の生長を祈る歌や勝利を願う応援歌など、歌っている内容は異なるけれど、共通しているのは「願いや祈りが人の声だけで表現されている」ということ。そして、複数の人の声がこんなにもそろっているのは、気持ちが集中しているから。「気持ちを一体化させて願いや祈りをより強く表現している」のがア カペラのよさだということを、最初の時間に押さえました。

内田：導入でしっかりとア カペラのよさを見いだしたことが、自分たちが歌う際にどう工夫したらよいかを考える手がかりになったわけですね。

高村：今日の課題は「ア カペラのよさを生かして歌うためには、どのような工夫したらよいか？」ということでしたが、皆がア カペラのよさのイメージを共有できていたことがよい効果になりました。

『手紙 ～拝啓 十五の君へ～』で音楽的な奥深さを学ぶ

9年生（中学3年生）

内田：今日はグループ活動という形でクラスを2つの小集団に分けていましたね。最近は学習形態にこだわりすぎる傾向があって、最初から少人数のグループで取り組ませる授業が多いようです。でも、少人数だと不安な段階では、適切な人数の小集団にするなど、もっと柔軟に考えてもよいと思います。大事なことは、よい音楽経験ができることであって、グループ活動自体が目的ではないですから。江見先生もクラスを2つの小集団に分けていましたが、いかがでしたか？

江見：少人数になりすぎると、歌が得意ではない子が心細くなって、本当はもう少し歌えるのにためらってしまうことがあります。合唱活動はそういう生徒たちも安心して歌えるような人数で行うのがよいと感じています。今日みたいに半分ずつ、30人のクラスなら15人ぐらいの集団だと、同じパートの仲間もいて心強いけれど、自分自身もしっかりと役割を果たす必要がある、ちょうどよい人数かもしれません。

内田：『手紙 ～拝啓 十五の君へ～』は子どもたちが歌いたいと希望したのですか？

江見：そうですね。校内の合唱祭では、この曲を自由曲に選ぶクラスが毎年あるぐらい人気があります。アンジェラ・アキさんの歌詞と自分たちの思いが共感するという声を多く聞くため、中学校3年間の合唱の集大成としてふさわしい曲だと思いました。

内田：生徒たちの様子からも曲に対する意欲が感じられましたね。

江見：15歳の自分、そして大人になってからの自分、それがこんなふうにつながっているんだという歌詞と曲の構成をしっかりと把握し、音楽的な奥深さを学ぶことでさらに興味が湧いたようです。

内田：拡大した楽譜に書き込む形式で、構成をしっかりと学ばせていたのが印象的でした。生徒たちも積極的に手を挙げていましたね。

江見：ちょうど合唱祭が終わってから取り組み始めたので、合唱祭で得た力がうまく授業にも生かされているように思います。

内田：生徒たちの合唱祭への取り組みの様子はいかがでしたか？

歌詞の構成と曲全体の構成を説明する

江見：今回は生徒たちの自主性を重んじて、自分たちで課題解決していく合唱祭を目指しました。生徒たちは賞をとりたいという意識がありますが、賞をとるためにはどうしたらよいだろう？ と考えたときに、「審査員や聴いていただくかたがたに自分たちの思いを伝えないといけない」と気付いたようです。そこで、思いを伝えるためにはどのように工夫するのがよいだろう？ と考えて、「メリハリをつけよう」「強弱も付けて、ハーモニーも美しくしなきゃ」といった工夫はもちろん、「どうしてここはユニゾンで歌うのだろう」「こんな気持ちだからここは掛け合いになっているのかもしれない」などと思考力を働かせながら、自分たちが編曲者のような立場になって課題を解決しようとしていました。

他教科の授業づくりとの関連を通して

内田：生徒たちがアイディアを出し合い課題解決に1時間取り組んだということが、今日の授業の成果でしたが、他教科での学びが音楽の授業にも生かされていると感じることはありますか？

高村：本校では他教科も課題解決型で行うことが多いんです。「どうしたらうまくいくだろうか」という課題の出し方から、みんなで知恵を出し合って解決していくところまで経験します。

内田：学力の3要素と言われますけれど、要素（エレメンツ）は単独では存在しえないんです。課題解決するために「知識・技能」を使おうとすると、自然に「主体性」も出てくる。つまり学力の3要素は一体化しながら働くものなのだということを、今日の授業を見ていて感じました。もう一つ印象的だったのが、言語活動が音楽と関わらせた活動になっていたということ。歌いながら、「こうしてみよう」「ああしてみよう」と意見を出し合っていましたね。おそらく音楽科だけでなく、いろいろな教科で全校的に取り組まれているのではないでしょうか。

○ 高村直子（たかむら・なおこ）
洞峰学園つくば市立谷田部東中学校 教諭

○ 江見智子（えみ・ともこ）
洞峰学園つくば市立谷田部東中学校 教諭

高村：そうですね。グループ学習が定着していまして、ほぼ全ての教科で意見交流が活発に行われています。特に、道徳は必ず課題解決型で行っており、「自分だったらこんなふうにするよ」といった意見を交流させながら、必ずしも答えを一つにまとめることなく、「そういう考えもあるんだな」というように互いの意見を尊重しながら問題に向き合っていくスタイルです。だから今日の授業でも、「こんな意見を言っても大丈夫かな？」と不安にならずに、オープンに意見を述べ合えたのだと思います。

江見：本校は全職員による「ローテーション道徳」が行われているんです。私は9年生を担当していますが、教員10人が1組から6組まで、ローテーションで道徳の授業を行います。担任以外の教員も道徳教育に関わり、生徒たちがいろいろな視点から学べるようにすることがねらいです。

内田：すばらしい取り組みですね。「主体的・対話的で深い学び」のためにはカリキュラム・マネジメントがセットだと言われているけれど、道徳が基盤になることで、他教科の授業でも皆が互いを認め合い、発言しやすい雰囲気をつくることができるという相乗効果が生まれているのですね。今日の授業でカリキュラム・マネジメントの重要性までも確認できたのは大きな収穫です。

生徒たちの将来を見据えて

内田：ふだんの授業で苦労されていることはありますか？

江見：苦労というわけではないですが、私は９年生を教えているので、生徒たちが卒業したあとのことが心配です。小学校１年生から中学校３年生までの９年間の課程で、「音楽でこういうことを学んだ」としっかり言えるのかなと。自分たちがそういう責任を果たせているかという問いが、常に心のどこかにあります。

内田：おそらく音楽科教員の誰もがもつ思いですよね。

江見：ある生徒が学校にあまり来ない時期があったのですが、歌が好きな子で、合唱の授業が始まると「練習に行かなくちゃ、合唱コンクールにも参加したい」という気持ちになり、登校ができるようになったことがあります。そういう姿を見て、やっぱり音楽は人をひき付ける力があるんだなと感じました。卒業後も、音楽によって救われたり、勇気をもらったりすることができればと願っています。

内田：子どもたちの将来に音楽科がどう関わるかという点で、高村先生はどのようにお考えですか？

高村：音楽の授業が生徒たちの生活につながるように、ということを意識しています。生徒たちによく話すのは、「私たちが好きな音楽や聴いていていいなと感じる音楽について、なぜそう感じるのか考えてみよう」ということです。好きな理由には、こういうメロディーが好きだとか、その人の声が好きだとか、その音楽の何かが関係している。「そうしたことを解き明かすのが鑑賞の授業なんだよ」というふうに伝えています。今世の中で売れている曲がどうしてそんなに人気なのか、実はヴィヴァルディの『春』やシューベルトの『魔王』からもひもとくことができるんだという話をすると、鑑賞の授業も身近なものになります。

内田：この曲のよさって何だろう？ 逆にどうして自分はこの曲のよさが分からないんだろう？ と考えることができるようになると、聴き方も変わってきますよね。たとえば、能の謡（うたい）を聴いて最初からおもしろいと思う子はあまりいないと思いますが、「どこがおもしろいのだろう？」と自分なりに考えていくと何か発見があるかもしれません。

高村：鑑賞の勉強が好きな音楽や身近な音楽につながると、音楽を通して生活が豊かになるのではないかと感じています。

内田：いろいろな音楽文化にアクセスするための力を付けて卒業してほしいですね。もう一つ、時代の要請として「美に関する価値観」が重要な資質だと言われるようになり、「STEAM教育」というのが提唱されています。Science, Technology, Engineering, Mathematicsの「STEM教育」にArtの“A”が入って「STEAM教育」。Art、つまり美的な価値観を学ぶべきだという考えが加わりました。アメリカのエリートビジネスマンが、出勤前にメトロポリタン美術館に寄るという現象も、そうした考えからでしょう。早朝に美術館へ行くと、スーツを着たビジネスマンがいっぱいいるらしいです。

江見：日本の教育もこれから変わっていきそうですね。

内田：日本でも「STEAM教育」を高校から導入することが打ち出されています。今まで「主要５科目」と言っていたけれど、ひょっとすると音楽や美術も主要教科になってくるかもしれません。アカペラの美しさや合唱の美しさなどを追求していくことで、音楽のよさや美しさを自ら見いだし、価値観をしっかりと身に付けていくことが、これからの音楽科教育に求められていくようになるでしょうね。

クラスを２つに分けた小集団で練習する

校長先生より

本校は「文武両道」を掲げ、勉強はもちろん、文化芸術・スポーツ活動も大切にしています。そのような校風があるのは、音楽の先生がたが生徒たちの豊かな感性を育てるために日々尽力してくださっていることも大きいと感じます。また、部活動の運営については、地域の専門家のかたがたに協力をお願いし指導に来ていただくなど、新しい試みを積極的に取り入れています。

柳橋浩利 先生
洞峰学園つくば市立
谷田部東中学校 校長

KYOGEI レポート

音楽劇『泣いた赤おに』

高畠町少年少女合唱団「エーデルワイス」20周年記念コンサートより

子どもの頃、誰もが一度は読んだことのある名作『泣いた赤おに』。道徳や国語の教科書にも掲載され、世代を超えて親しまれています。原作者の浜田広介氏は、山形県の南東部に位置する高畠町の出身。「赤おにのふるさと」ともいえる高畠町で、子どもたちによる音楽劇『泣いた赤おに』（横山裕美子 作詞・作曲）が上演されました。

青おにが赤おにに提案をする場面

奥羽の山々に囲まれた美しい町に、高畠町少年少女合唱団「エーデルワイス」の子どもたちの歌声が響く。結成20周年を迎えた同合唱団は、金子研司先生・祥子先生ご夫妻が中心となって指導されており、小学校１年生から高校２年生までの14名が在籍している。

2019年２月３日、「エーデルワイス」20周年記念コンサートで音楽劇『泣いた赤おに』が上演された。さすが、「赤おにのふるさと」で育った子どもたちである。演じているというよりも、まるで絵本から飛び出したような印象で、みごとに童話の世界を体現していた。

音楽劇は６曲の合唱曲によるシンプルな構成だ。人間と仲良くなりたい赤おにの気持ちをのびやかな旋律で表現した『やさしい赤おに』、青おにが赤おにに語りかける場面を説得力をもって歌い上げる『青おにの提案』、人間と仲良くなれてしあわせな中、青おにが訪ねてこないことに気付く赤おにの心中を、美しい和声や調性の変化で表した『しあわせな日々』など、１曲１曲は短いが、赤おにの心情や青おにのやさしさを分かりやすく表現し、聴く人の心に響く作品になっている。

練習中のエピソードだが、歌っている途中で小学校１年生の団員が泣き出したという。理由を尋ねると、青おにが赤おにに宛てて書いた手紙の歌詞を読んで、青おにのやさしさに泣いてしまったとのこと。幼い子どもほど、登場人物の心情をそのまま感じ取ることのできる真っさらな心をもっているのかもしれない。『泣いた赤おに』は、豊かな感受性が育まれる子ども時代にこそ、触れてほしい作品だ。本で読んだお話を音楽で表現することで、また違った味わい方ができるだろう。

（ヴァン編集部）

作詞・作曲を手がけた横山裕美子先生からのメッセージ

『泣いた赤おに』はあまりにも有名な物語ですが、「青おにが赤おにのために、なぜこのような献身的な行動をしたのか」ということが、私にとって小さい頃からの疑問でした。

作詞をするにあたり、原作の“おにどものためになるなら、できるだけよいことばかりをしてみたい”という赤おにのセリフから想像をめぐらして、以前赤おにに助けてもらったことがある青おには、いつか赤おにに恩返しをしたいと思っていたのではないかと解釈しました。

おにたちとだけでなく、人間たちとも仲良くしたい気持ちがあふれ出す赤おにと、それを助けたい青おに、そしてまわりの人間たちとの関係を６曲で構成し、一つ一つ音を吟味しながら、歌いやすく、素朴で美しい心に響く音楽を目指しました。

左から、赤おに役の阿部天衣子（まいこ）さん、横山裕美子先生、「エーデルワイス」団長の金子祥子先生

音楽物語『泣いた赤おに』（教育芸術社）
浜田広介 原作／横山裕美子 作詞・作曲
定価（本体1,500円＋消費税）／B5判／48ページ

掲載曲（全６曲）
やさしい赤おに／立札／青おにの提案／
あばれ青おに／しあわせな日々／
ドコマデモ キミノ トモダチ ～青おにの心

あばれる青おにを止めようとする赤おに

KYOGEI
レポート

世代を超えて音楽を楽しむ

備前市文化事業鑑賞会
「音楽の教科書から選ぶ！ 市民が聴きたい曲ランキング」

令和元年７月７日、“市民参加型”の文化事業鑑賞会が備前市市民センターのホールで開催されました。これは、小・中学校の音楽の教科書に掲載された曲の中から、市民の投票によって選ばれた人気曲をプロのオーケストラが演奏するというユニークな催し。子どもから大人まで幅広い世代が集い、それぞれの思い出が詰まった音楽を楽しみました。

岡山フィルハーモニック管弦楽団

教科書の人気曲をオーケストラで

「焼き物のまち」として有名な備前市。窯元の煙突が伸びる伊部地区や、堅牢な備前焼瓦を葺いた特別史跡「旧閑谷（しずたに）学校」など、風情ある街並みが印象的だ。ここ備前市で昭和58年度より続いている文化事業鑑賞会は、平成26年度からは毎年テーマを決めて、市民誰もが参加できる演奏会となっている。令和元年のテーマは「音楽の教科書に掲載された曲」。市民の投票で選ばれた人気曲の数々が、岡山フィルハーモニック管弦楽団によって演奏された。

・・・

前半はヴェルディの歌劇『アイーダ』*1より「凱旋行進曲」で始まった。華やかなトランペットが鳴り響き、鑑賞会の幕開けを告げる。皆、自分が投票した曲が演奏されるのか、ワクワクしている様子だ。この鑑賞会の特徴は、クラシック音楽以外の曲もオーケストラで楽しめること。『ミッキーマウスマーチ』*2の演奏が始まると、子どもたちは手をたたきながら大喜び。会場が一気に盛り上がった。続いて演奏されたのは『こいぬのマーチ』*3。司会者が「この曲を弾いたことがある人？」と問い掛けると、「はーい！」と大きな声があちらこちらから上がった。学校の授業では鍵盤ハーモニカで演奏する曲だが、今回はオーケストラのさまざまな楽器の音色で奏でられ、いつもとは違った音楽の楽しみ方ができたことだろう。

会場に貼り出された人気曲のランキングを見る子どもたち

鑑賞会会場の備前市市民センター

オーケストラの指揮者に挑戦

後半の目玉は“指揮者コーナー”だ。お客さんが、指揮者の山上純司氏から直々に指導を受けてベートーヴェン『交響曲第５番 ハ短調〈運命〉』*4の冒頭部分の指揮を振るという企画。立候補を募るとたくさんの手が挙がり、その中から選ばれた３名が舞台へ。大勢の聴衆を前に〈運命〉を指揮するなんて、さぞ緊張するのではないか？ とハラハラしながら見守っていたが心配は無用だった。「最初のダダダダーンというところを思い切って振り下ろすと、オーケストラは運命の扉をたたくように演奏してくれます。それが２回続いた後は、オーケストラが出てくるのを待っているとだんだん遅くなってしまうので、勇気をもってどんどん振り進めていくのがコツですよ」という山上氏のアドヴァイスを受けて、いざ挑戦。小学生の女の子も堂々と指揮を振り、感想を聞かれると「ちょっと緊張したけれど、楽しかったです」と満足そうに答えた。

指揮者の山上純司氏

・・・

アンコールでは、『ふるさと』*5（70歳代以上の投票で第１位）をオーケストラの演奏にのせて皆で合唱。孫世代と祖父母世代が一緒に歌う、心温まる時間となった。最後はヨハン・シュトラウスⅠ世『ラデツキー行進曲』*6で手拍子をたたきながら、笑顔あふれる鑑賞会が締めくくられた。教科書は時代が変わっても誰もが必ず手にするもの。学校時代の思い出が詰まった曲を鑑賞会で久しぶりに聴いて、懐かしい気持ちになったかたも多くいらっしゃったことだろう。世代を超えて愛される曲を、これからも守り伝えていきたいと再認識させられた。（ヴァン編集部）

〈運命〉の指揮に挑戦する小学生

市民の投票による人気曲ランキング

順位	曲名	作者	掲載教科書	投票数
1	**魔王**	ゲーテ 作詞／大木惇夫・伊藤武雄 日本語詞／シューベルト 作曲	中学生の音楽１	140
2	**つるぎのまい**	ハチャトゥリヤン 作曲	小学生の音楽４	73
3	**Believe**	杉本竜一 作詞・作曲	小学生の音楽５	50
4	**威風堂々**	エルガー 作曲	小学生の音楽５	39
5	**こいぬのマーチ**	久野静夫 作詞／作曲者不明／黒澤吉徳 編曲	小学生のおんがく１	35

Interview

主催者の備前市教育委員会を代表して、職員の小橋智裕さんにお話を伺いました。

小橋（こばし）智裕さん
備前市立中央公民館長（社会教育主事）

Q 投票はどのような形で行われたのですか？

市内の小・中学校全校にアンケートを配ったほか、図書館にもボックスを設置して来館者に回答してもらうなど、できるだけ多くの市民に参加していただくようにしました。結果的に1644票が集まり、１位から164位までをリストアップしました。

Q なぜ教科書に掲載された曲から選ぶことにしたのですか？

学校で習う曲は教科書紙面やCDを通して学ぶわけですが、それを生演奏で聴く機会はあまりないと思います。知っている曲をあらためて生のオーケストラで味わってほしいというのが大きな目的です。また、教科書掲載曲の中には、どの年代のかたも知っている名曲があります。子どもから大人まで、世代を超えて一緒に音楽を楽しんでもらいたいと思い、今回のプログラムを検討しました。

Q 鑑賞会には幅広い世代のお客さんがいらっしゃっていましたね。

はい。親子連れだけではなく、お孫さんと祖父母のかたという組み合わせも多く見かけました。一般的なオーケストラの演奏会には未就学児は入場できないことが多いと思いますが、文化事業鑑賞会は誰でも参加できるよう年齢の制限を設けていません。ときには演奏中に赤ちゃんの泣き声がすることもありますが、それも含めて市民みんなの鑑賞会だと考えています。

掲載教科書（教育芸術社）
＊１・４ 『中学生の音楽２・３上』
＊２ 『小学生の音楽３』
＊３・６ 『小学生のおんがく１』
＊５ 『小学生の音楽６』『中学生の音楽（全学年）』

ランキングの詳細（１～164位）は
備前市のホームページに掲載されています。
http://www.city.bizen.okayama.jp/shimin/shisetsu/kouminkan/r1-bunkajigyoukansyoukai.html

KYOGEI
レポート

子ども国際交流音楽祭　交流コンサート

**羽村市・檜原村・奥多摩町の中学生
ウィーンの一流音楽家とともに**

東京の都心から西へ約45キロの位置にある、緑豊かな羽村市。ウィーンの第一線で活躍する５人の音楽家が、羽村市・檜原村・奥多摩町が共同で主催する「子ども国際交流音楽祭」に出演するため、この地を訪れました。2019年10月14日に中学生とプロの音楽家が共演した交流コンサートの模様をご紹介します。

『アヴェ マリア』のステージ

西多摩に本場の音楽を

2019年秋、音楽の都・ウィーンで活躍する５人の音楽家が日本に降り立った。マティアス・シュルツ氏（フルート／ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団奏者〈ゲスト〉）、ヨハネス・カフカ氏（ファゴット／ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団奏者〈ゲスト〉）、ヨナス・ルードナー氏（ホルン／ウィーン・トーンキュンストラー管弦楽団首席奏者）、クリストフ・ツィムパー氏（クラリネット／ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団元首席ソロ奏者）、ステファニー・ガンシュ氏（オーボエ／ウィーン交響楽団第一奏者）というメンバーである。彼らの来日目的は、東京都の西多摩地区、羽村市・檜原村・奥多摩町で行われる「子ども国際交流音楽祭」に出演するためだ。

この音楽祭は2011年、ヨーロッパを拠点に活動し、自身も西多摩出身の声楽家で、私学で教鞭も執る岡部武彦氏が「西多摩地区の子どもたちに本場の音楽を」という趣旨で立ち上げたもの。これに賛同した羽村市・檜原村・奥多摩町が市町村の垣根を越えて、共同事業として主催している。

会場の羽村市生涯学習センター

９回目となった今回は、当初３日間（10月12日・檜原村、14日・羽村市、15日・奥多摩町）の開催を予定していた。しかし、10月12日に上陸した台風19号の影響で、檜原村でのコンサートは中止を余儀なくされた。

地元に根ざした交流文化

「子ども国際交流音楽祭」のメイン・イベントである羽村市での交流コンサートが開かれたのは、前日までの悪天候が嘘のような、気持ちのよい秋晴れとなった10月14日。しかしこの日、出演予定だった檜原村立檜原中学校の生徒全員は、災害による倒木の影響で会場までの道が通行止めとなったため、参加が叶わないという不測の事態に見舞われた。そのこともあって、音楽祭の関係者やリハーサルに参加していた他校の生徒たち、観客として会場を訪れた保護者や地域の人々は皆、お互いに台風の被害を気遣いながら、開演までの時間を過ごしていた。

コンサートではまず、「子ども国際交流音楽祭合唱団」が『HEIWAの鐘』と、J.アルカデルト作曲『アヴェ マリア』をラテン語で歌う。この日のために結成された合唱団で、参加者は羽村市立羽村第一中学校、羽村市立羽村第二中学校、奥多摩町立氷川小学校、高校生で編成されていた。本来であれば、檜原中学校の７名も加わっているはずだった。

木管五重奏の指導と共演。羽村第一中学校の吹奏楽部はこの５日後に行われた「全日本吹奏楽コンクール」の全国大会で銀賞を受賞した

左からクリストフ・ツィムパー氏（クラリネット）、ヨナス・ルードナー氏（ホルン）、マティアス・シュルツ氏（フルート）、ヨハネス・カフカ氏（ファゴット）、ステファニー・ガンシュ氏（オーボエ）

次はウィーンの５人の音楽家が行う、羽村第一中学校吹奏楽部の生徒たち（木管五重奏）への指導。「目だけでなく、全身でアイコンタクトを感じてみましょう」「アンサンブルでは、音楽の中で会話することが大切です。自分が話をしたり、相手の話を聞いたり、そのようなやりとりを意識してください」などのアドバイスをプロから得た生徒たち。共演を行った感想は「プロの音は、とてもきれいな音でした」と、音色に興味をもつものが多かった。そして西多摩出身の若手音楽家の金管三重奏で前半を締めくくる。

「ウィーン音楽家演奏」と題した後半、木管五重奏によって披露されたのは、モーツァルト『フィガロの結婚』序曲、ベートーヴェン『七重奏曲』（木管五重奏編）、クライスラー『愛の喜び』、『日本の歌（花いちもんめ・浜辺の歌・村祭り・ふるさと）』など、名曲の数々。終演後に行われたサイン会は長蛇の列で、会場の熱気からもこの交流コンサートが地元に根ざしたものであることを実感した。次回、2020年のコンサートでは、羽村市・檜原村・奥多摩町の生徒たちがそろって笑顔を見せてくれることを願っている。

（ヴァン編集部）

出演者名、曲名は当日のプログラムに基づいています。

Interview

岡部武彦 先生
（「子ども国際交流音楽祭」音楽監督）

出演する生徒さんは毎年変わりますので、子どもたちには最高のプレゼント、そして一生の思い出になるような経験をしていただくことが目標です。演奏者は、ウィーン・フィルの奏者、ウィーン国立音楽大学の教授など、世界の第一線で活躍しているかたがたで、毎年来日してくださるメンバーもいます。この音楽祭は奥多摩町から始まり、羽村市、檜原村へと広がりました。国際的な音楽交流を少しずつ積み重ねてきた今、10年目となる次回の開催を控えて、ようやくこの音楽祭の礎が定まってきたように感じます。今後もこの音楽祭が末長く継続し、西多摩地区の文化向上の一助を担えたらと思います。

Interview

竹内 恵 先生
（檜原村立檜原中学校）

今年は台風の影響のため、檜原村でのコンサートは中止になってしまいましたが、例年は地域ぐるみで多くのかたがたが応援に駆けつけてくださる音楽祭です。この地域は、気軽に演奏会に行くことも難しい環境にあるので、一流のかたの演奏を聴くだけでなく、演奏に対してのアドヴァイスをいただき、共演までできる本音楽祭は、生徒たちにとって、とても貴重な機会になっています。また、檜原中学校は、檜原村唯一の中学校で人数も少ないため、他校の生徒さんたちと大人数で演奏ができることも、とてもよい経験になります。今回出演できなかったことは非常に残念ですが、何とか参加できるよう多くのかたがたがぎりぎりまで尽力してくださいました。子どもたちには感謝の気持ちを大切に、これからも耳と目と心の出会いを通して、前向きに歩んでいってほしいと思います。

Kyogei Presents

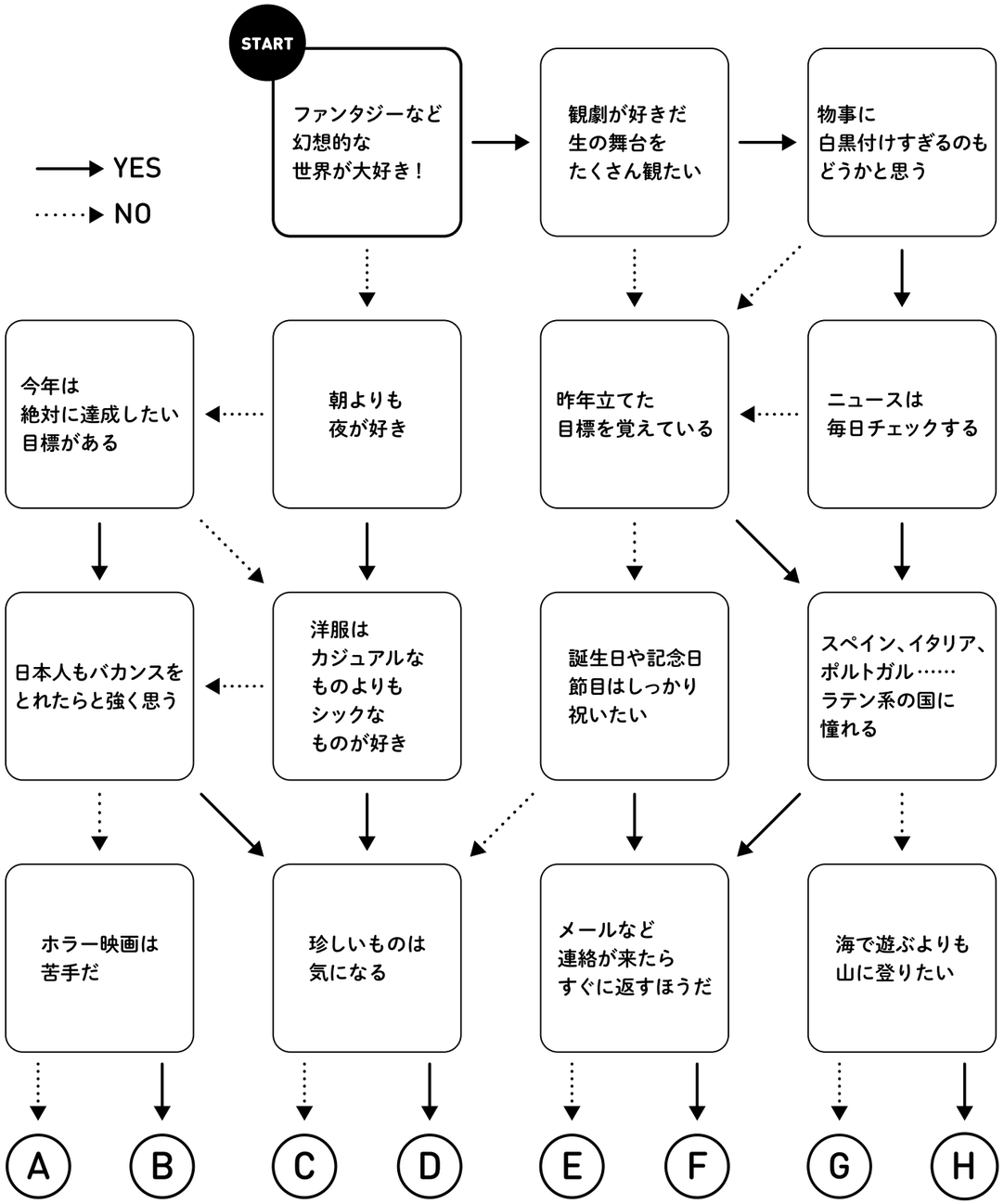
音楽診断

第７回

今年のおすすめ名曲編

『ヴァン』オリジナルでお届けする音楽診断企画の第７弾。
今回は７つの名曲から、今年のあなたにおすすめの作品をご紹介します。

監修・解説＝山田治生
Text＝Haruo Yamada



あなたへのおすすめは？

Ⓐ 短調の美しい人気曲
モーツァルト『交響曲第40番』
（作曲年：1788年*／ウィーン）

40曲以上あるモーツァルトの交響曲の中で、たった2曲しかない短調の作品の一つ（もう一つは第25番）。とりわけ、悲哀を帯びた第１楽章の旋律は誰もが耳にしたことがあるだろう（ポピュラーにも編曲されている）。1788年の夏、モーツァルトは、彼にとって最後の交響曲の創作となった、第39番、第40番、第41番の３つの交響曲を一気に作曲した。多くの人々を魅了し続けてきた第１楽章だけでなく、第４楽章フィナーレでも哀しみが駆け抜けていく。

＊正確な初演年は不明

Ⓑ 苦しみを乗り越えた喜びを！歴史的作品
ベートーヴェン『交響曲第９番』
（初演：1824年／ウィーン、ケルントナートーア劇場）

ベートーヴェンの交響曲第９番は「第九」として、今や日本の年末の風物詩となっている。第４楽章のメロディーが「歓喜の歌」として有名であるが、全曲は、苦悩や闘争を経て歓喜に至るというストーリー性をもつ。特にゆったりとした第３楽章が感動的。シラーの詩とともに人類愛が歌われるこの作品は、ベートーヴェンでは唯一の合唱付きの交響曲。後のマーラーらの交響曲に大きな影響を与えた。また、初演（1824年）当時、１時間を超える交響曲は前代未聞だった。

Ⓒ 心に寄り添う感動的な音楽
チャイコフスキー『交響曲第６番《悲愴》』
（初演：1893年／サンクトペテルブルク）

交響曲第６番「悲愴」は、チャイコフスキーにとっての最後の交響曲である。この交響曲の第４楽章からは、作曲者の死への意識が強く感じられる。悲哀に満ちた冒頭部分のあと、中間部は“祈り”のような感動的な音楽となる。その後、銅鑼が鳴り、葬送を象徴するトロンボーンの合奏。最後のコントラバスのリズムは弱まっていく鼓動だろうか。「悲愴」は、ベートーヴェン型の「苦悩を経て歓喜」とは逆の、悲しみのアダージョで終わる交響曲の先駆けとなった。

Ⓓ 伝統的スタイルで書かれた最高傑作
ブラームス『交響曲第４番』
（初演：1885年／ドイツ テューリンゲン、マイニンゲン宮廷劇場）

ブラームスの最後の交響曲である第４番は、50歳を超えた作曲者の情熱と諦観が円熟の筆致で描かれた傑作である。ブラームスは、リストやワーグナーなどの大掛かりな音楽がもてはやされた後期ロマン派の時代において、伝統的で懐古的な創作のスタンスをとり続けた。それでも交響曲第４番では、第４楽章にシャコンヌの形式を用いたり、彼の交響曲のなかでは唯一、短調で終わるなどの試みもした。第１楽章冒頭でヴァイオリンが奏でる憂愁を帯びた第１主題が印象的。

Ⓔ 明るく迫力満点！交響詩三部作の最終作
レスピーギ『ローマの祭』
（初演：1929年／アメリカ、ニューヨーク）

交響詩『ローマの祭』は、イタリアの作曲家、レスピーギの「ローマ三部作」の最後の作品（他の２つは『ローマの噴水』と『ローマの松』）。「チルチェンセス」、「五十年祭」、「十月祭」、「主顕祭」というローマの４つの祭が描かれる。古代ローマの獰猛で残虐な祭で始まり、最後は民衆たちのお祭り騒ぎに至る。別働のトランペット隊やオルガン、マンドリンを要する巨大編成のオーケストラが、色彩豊かで迫力満点の音楽を繰り広げる。

Ⓕ 優しく語りかける童話の世界
ラヴェル『マ・メール・ロワ』
（初演：1910年／パリ、ガヴォーホール）

『マ・メール・ロワ』は、フランスの作曲家、ラヴェルが友人の子どもたちのために書いた組曲。フランス語の「マ・メール・ロワ」は、英語の「マザー・グース」に当たる。ラヴェルは、このタイトルをシャルル・ペローの童話集の名前からとった。オリジナルはピアノ連弾のための組曲だが、作曲家自身の編曲による管弦楽版と、前奏曲や新たなシーンを加えたバレエ音楽版も存在する。とりわけ、眠りの森の美女の目覚めが描かれる第５曲「妖精の園」が感動的。

Ⓖ 凄絶なストーリーの有名オペラ
リヒャルト・シュトラウス『サロメ』
（初演：1905年／ドイツ ドレスデン、ゼンパー・オーパー）

ドイツ出身のR.シュトラウスは、交響詩やオペラに数多くの名作を残した。『サロメ』はオスカー・ワイルドの戯曲に基づくオペラ。サロメは、義父ヘロデに、幽閉中の預言者ヨカナーンの首を所望し、自らの踊りと引き換えにヨカナーンの首を得る。サロメが１枚ずつ衣を脱ぎ捨て全裸になる官能的な〈７つのヴェールの踊り〉が、オーケストラ作品として聴きもの。オペラの終盤、ヨカナーンの首を得たサロメがその唇にキスをするモノローグが凄絶を極める。

Ⓗ オペラ界の革命家が全てを手掛けた大曲
ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』
（初演：1865年／ミュンヘン、バイエルン宮廷歌劇場）

ワーグナーは、作曲だけでなく、自ら台本を書き、指揮を執り、演出を手掛け、音楽祭まで創設した、オペラ界の革命家。『トリスタンとイゾルデ』はそんな彼の代表作。休憩時間を入れない正味の上演時間が４時間に及ぶ大作。媚薬によって、トリスタンとマルケ王の妻イゾルデとは不倫の仲になる。第２幕のロマンティックで濃厚な愛の二重唱が聴きどころ。前奏曲と最後の「イゾルデの愛の死」は単独でもしばしば演奏される名曲。

山田治生（音楽評論家）
1964年、京都市生まれ。1987年、慶應義塾大学経済学部卒業。著書に『トスカニーニ〜大指揮者の生涯とその時代』、小澤征爾の評伝である『音楽の旅人〜ある日本人指揮者の軌跡』、『いまどきのクラシック音楽の愉しみ方』（以上、アルファベータ）、編著書に『戦後のオペラ』（新国立劇場情報センター）、訳書に『レナード・バーンスタイン　ザ・ラスト・ロング・インタビュー』（アルファベータ）などがある。

イラストレーション：こばやしみさこ

Information

2020年に予定されている主な研究大会やイベントをご紹介します。

研究大会

【ご案内】本ページでご紹介しておりました研究大会は全て開催中止となりました。

10月 October

2日(金) 開催中止 ※本年度は「紙上発表」に変更になりました。

第61回 九州音楽教育研究大会
福岡県大会 北九州大会
北九州芸術劇場大ホール 他

〈大会主題〉
心が動き、つながり、広がる、豊かな音楽の世界

[問い合わせ]
事務局
北九州市立小森江西小学校 校長 倉本京子
〒800-0005 福岡県北九州市門司区羽山1丁目12番1号
TEL 093-381-5538／FAX 093-381-5539
komorienishi-e@kita9.ed.jp

11月 November

5日(木)、6日(金) 開催中止

令和２年度 全日本音楽教育研究会全国大会
高等学校部会大会 茨城大会
ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)

〈大会主題〉
音楽でつながる人と心 ～生涯にわたって～

[問い合わせ]
令和２年度全日本音楽教育研究会全国大会
高等学校部会 茨城大会 事務局
茨城県立水戸第三高等学校
村田孝夫(茨城県高等学校教育研究会音楽部事務局長)
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸2-7-27
TEL 029-224-2044／FAX 029-225-4524

6日(金) 開催中止

2020年度 全日本音楽教育研究会全国大会
(小・中学校部会大会) 群馬大会
第62回関東音楽教育研究会 群馬大会
第55回群馬県小・中学校音楽教育研究大会 高崎大会
群馬音楽センター 他

〈大会主題〉
心ふれあう 豊かなひびき

[問い合わせ]
全日本音楽教育研究会全国大会 群馬大会 事務局
高崎市立金古小学校 校長 中島宣子
〒370-3511 群馬県高崎市金古町1271
TEL 027-373-2233／FAX 027-373-2420
kaneko-sho@ted.city.tasaki.gunma.jp

13日(金) 開催中止

第62回 北海道音楽教育研究大会 札幌大会
札幌市教育文化会館 他

〈大会主題〉
音楽のよさを分かち合い　確かな力を育む音楽教育

[問い合わせ]
第62回北海道音楽教育研究大会 札幌大会 事務局
札幌市立幌西小学校 校長 足立 敎
〒064-0810 札幌市中央区南10条西17丁目1－1
TEL 011-561-2201／FAX011-551-6213
hokuonkyo@gmail.com

13日(金) 開催中止

第51回 中国・四国音楽教育研究大会 岡山大会
岡山シンフォニーホール 他

〈大会主題〉
未来につながるわたしと音楽

[問い合わせ]
事務局
岡山市立操南小学校 校長 岡本浩子
〒702-8006 岡山市中区藤崎45
TEL 086-277-7127／FAX 086-277-7128
sonans@city-okayama.ed.jp

19日(木) 開催中止

第68回 東北音楽教育研究大会 宮城県仙台地区大会
第56回 宮城県音楽教育研究大会 仙台地区大会
七ヶ浜国際村 他

〈大会主題〉
奏でよう　生きる喜びを　つながろう　音楽で

[問い合わせ]
七ヶ浜町立向洋中学校 主幹 笠原洋平
〒985-0823 宮城県宮城郡七ヶ浜町遠山1-9-18
TEL 022-365-8151／FAX 022-365-3133

20日(金) 開催中止

令和２年度 第62回 近畿音楽教育研究大会
奈良大会
奈良県橿原文化会館 他

〈大会主題〉
響DO！(協働) ～感じる 深める 心の音色～

[問い合わせ]
第62回近畿音楽教育研究大会 奈良大会 事務局
奈良県立榛生昇陽高等学校 米田珠代
〒633-0241 奈良県宇陀市榛原下井足210
TEL 0745-82-0525　FAX 0745-82-7606

教育芸術社ホームページでは、この他の研究大会やイベントなどの情報も掲載しています。
https://www.kyogei.co.jp/data_room/event/

— 新作合唱曲による公開講座 —

Spring Seminar 2020

コンクール自由曲向けの新曲発表会「Spring Seminar 2020」を開催いたします。
同声・女声・混声の各２曲(全６曲)を作曲者、司会者、合唱団と学びます。
セミナー終了後「小学校の部」「中学校の部」「高等学校の部」に分かれて、Nコン課題曲のワンポイントレクチャーも行います。

● 日　時：2020年３月27日(金)
12：45～17：20

＜ご案内＞
「Spring Seminar 2020」は、開催中止とさせていただきました。詳しくは、スプリングセミナーのFacebookページをご覧ください。

● 司　会：藤原規生

作曲家：[同声] アベタカヒロ、大熊崇子
[女声] 土田豊貴、横山潤子
[混声] 三宅悠太、木下牧子

合唱団：八千代少年少女合唱団
(指揮：長岡亜里奈)
女声合唱団 ゆめの缶詰
(指揮：相澤直人)
Youth Choir Aldebaran(ユースクワイア アルデバラン)
(指揮：佐藤洋人)

● お問い合わせ：
株式会社教育芸術社
スプリングセミナー実行委員会
TEL 03-3957-1168
FAX 03-3957-1740
https://www.kyogei.co.jp/

申込み受付中です。
(先着順で定員になり次第締め切らせていただきます)
作曲者、内容などは予告なしに変更となる場合がございます。
最新情報は、スプリングセミナーのFacebookでも発信いたします。
https://fb.me/kgspringseminar

株式会社小島製本 岩槻工場内の断裁機の一部

第❸回「製本」

教科書トリビア

この連載では、1冊の教科書が出来上がるまでの道のりをレポートします。第1回では教科書の用紙を抄造している製紙工場、第2回では印刷過程をご紹介しました。第3回のテーマは「製本」。ついに、日々目にしている教科書の形へと完成する瞬間が訪れます。製作の最終ステージ、株式会社小島製本岩槻工場を取材させていただきました。

株式会社小島製本 岩槻工場… 埼玉県さいたま市の東部、「人形の町」として知られ、工業地区としても栄えている岩槻区。その一角にある工場の入り口をくぐると、中は広々とした空間でした。「教科書」と「地図」は、特に高い製本技術が必要とされますが、ここ小島製本では、両方とも取り扱っています。

［ 製本の種類 ］

製本方法は、大きく「上製本」と「並製本」に分かれています。

上製本…辞書や図鑑に見られる製本技術で、糸でかがったり、表紙と背に厚紙を用いたりして、美しく頑丈に結合されます。中世から培われてきた手間のかかる製本技術で、1873年に日本に伝わりました。

並製本…産業革命以降の英国で開発された、高速大量生産ができる製本技術です。製本方法として、無線綴じ（文庫本等）、アジロ綴じ（月刊誌等）、平綴じ（教科書、漫画等）、中綴じ（パンフレット等）などがあります。ほとんどの出版物は並製本です。

［ 教科書の製造過程 ］

❶ 重ねる

印刷された紙は、8ページまたは16ページで1組に折り畳まれて工場に届きます。その紙を、ページ順に重ねる「丁合」を行います。

①紙をセットする…ページ順になるよう、各機械に紙を入れていく。必ず人が行い、汚れているものがないか肉眼でも確認する。

②丁合…モニターで検知しながら、紙が重ねられていく。

③寝かせる（1）…次の工程で針を通しやすくするため、一晩寝かせて紙の間の空気を抜く。

セットされた紙は、
機械下部で重ねられていく

積み重ねて一晩寝かせる

❷ 糸で綴じる

通常の「中綴じ製本」は針金を使用しますが、教育芸術社の教科書は、針金の代わりに糸でかがります。これは上製本で見られる過程であり、開きやすく、子どもたちの手を傷つけない安全性の高い様式です。

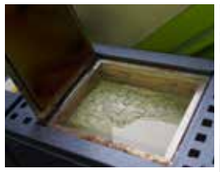
①糸で縫う…使用する糸は、いちばん品質のよい白の木綿で、熱にも強く、製本に最適。

②寝かせる（2）…次の工程で糊付けしやすくなるよう一晩寝かせて、さらに紙の間の空気を抜く。

機械の上部に固定された糸でかがられていく

❸ 糊付けする

糊で中身と表紙を固定します。糊は「ホットメルト」といい、熱で溶けて、冷やすと固まるもの。小島製本では、紙に染み込みやすく柔らかい最高級の糊を使用しています。



機械に投入された糊。
もとは固形だが、
熱で溶けて、冷やすと固まる

表紙と中身が糊付けされていく

❹ 裁断する

三方から断裁機で裁断します。切れ端は工場内に取り付けられたホースで吸い上げられ、トイレットペーパーなどの原材料としてリサイクルされます。

①ラインを流れていく裁断前の教科書

②断裁機の中。速いスピードで次々と三方がきれいに切られていく

③教科書は1日に4万冊ほど仕上がる。出来上がった教科書はビニールを使用して特殊な形で梱包されるため、傷が付かない状態で納品が可能となる

［ 工場のこだわり ］

必ず「人の目」で確認

製本は機械を使用していますが、各工程にはそれぞれを専門とする複数の担当者がついて、製本の状態を確認したり、切り替え作業をしたりします。

断裁機から出てくる教科書を
最終確認する

品質の管理

「製本」は最終工程のため、注意して細部まで検品します。強度や重さをグラム単位で測定したり、作業上でこすれてしまったような汚れはないか、背表紙がずれていないかと目で確認したり、細やかな配慮が必要です。

教科書のための特殊な様式

教育芸術社の教科書は「中綴じ」での開きのよさ、上製本で使用される「糸のかがり」の強度、「アジロ製本」での糊を使ったさらなる強度、この3つの長所を組み込んだ、オリジナルの様式です。教育芸術社で研究、テストを重ねて編み出したこの様式は、開きがよく、強度の十分な教科書に仕上がります。糸を使用しているため、針金で子どもたちの手を傷つける心配もありません。

＼お話を伺いました／

社長の小島一紀さん

岩槻工場で大切にされていることは何ですか？

⟶ 私たちが請け負っているのは最終段階ですから責任は重大です。「しっかり見ていく」「間違いのないものをお納めする」ということを理念とし、品質面を第一に考えています。教科書は一人一冊の唯一の本ですから、間違いのない、きれいなものをお届けしなくてはなりません。

教科書を製本するうえで、難しいことはありますか？

⟶ わずかなずれが生じた場合、楽譜なら五線上の音、地図であれば道が変わってしまいます。内容を変えてしまいかねないので、慎重に検品します。湿度の低い季節には、静電気が発生すると紙がくっついてしまい、作業がしにくくなることも。そのようなときには、床に水をまくこともあります。心配事は多いですが、本の形になったときはいつもうれしいですし、子どもたちがこの教科書をどのように使うのかなと想像するのは楽しいです。

編集後記

吸い込まれそうな空と、力強くも美しい山の斜面。

今号の巻頭は、世界中を旅し、エベレスト登頂などの高所登山も行う写真家、石川直樹さんにフォトエッセイをご寄稿いただきました。写し出された見事な大自然は、実際に外に出て、自分で足を運び、目と耳で何かを感じ取ることのすばらしさを訴えかけてくるかのようです。

「授業者に訊く」では、先生がたが協力しながら音楽科教育の可能性を広げていく実践を取り上げています。どちらの学校でも、笑顔で生き生きと活動に取り組む児童生徒の様子が印象的でした。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力を賜りました全てのかたに、心より厚く御礼申し上げます。今後ともご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

表紙・巻頭イラストレーション
スズキタカノリ

写真提供
藤原道山

イラストレーション
こばやしみさこ

表紙デザイン・本文組版
STORK

音楽教育 ヴァン

発行者　株式会社 教育芸術社（代表者 市川かおり）
〒171-0051　東京都豊島区長崎1-12-15
TEL. 03-3957-1175（代）
FAX. 03-3957-1174
https://www.kyogei.co.jp/
JASRAC 出 1912972-901
©2020 by KYOGEI Music Publishers. Ⓟ-20
本書を無断で複写・複製することは著作権法で禁じられております。

LOVE THE ORIGINAL
楽譜のコピーはやめましょう

＊ヴァン＝“vent”はフランス語で「風」。新しい音楽教育の地平を切り開いていく願いを込めています。

Recommend

音楽物語
泣いた赤おに

浜田広介 原作／横山裕美子 作詞・作曲

○道徳や国語の教科書にも掲載されている名作童話を合唱で味わえる作品集。取り組みやすい二部合唱の６曲で構成され、曲だけを通して演奏してもストーリーが伝わります。
○収録曲：やさしい赤おに／立札／青おにの提案／あばれ青おに／しあわせな日々／ドコマデモ キミノ トモダチ ～青おにの心
○教育芸術社ホームページで演奏動画もご覧いただけます。
● 定価（本体1,500円＋消費税）／B5判／48ページ
● ISBN978-4-87788-915-9

Chorus ONTA Vol.26

○混声合唱のためのパート練習用CD。
○収録曲：おおいなる川 ～はるかな旅へ～／僕らの夢を届けよう／見上げてごらん夜の星を（三宅悠太編曲）／きらきら／はなさくら／栄光の架橋（相澤直人編曲）／あなたに届けよう／ぜんぶ／さよならの前に／花の名前／Gifts
● 定価（本体12,000円＋消費税）／４枚組
● KGO-1189～1192

Chorus ONTA Vol.27

○２月上旬発売予定。
○混声合唱のためのパート練習用CD。
○収録曲：春はいま／モンシロチョウ／Happiness／道の途中で／明日への序奏／君の隣にいたいから／花がほほえむ／リアルビクトリー／この町が好き／忘れることなんかできない／夕陽
● 定価（本体12,000円＋消費税）／４枚組
● KGO-1193～1196

令和２年度～
教育芸術社 小学校音楽教科書準拠
デジタル教科書「小学生の音楽１～６」

○令和２年度に改訂される新しい教科書「小学生の音楽」に準拠しています。

表示ソフトウェアは「まなビューア」を使用しています。

指導者用デジタル教科書（教材）
［校内フリーライセンス］
○指導者がプロジェクターや電子黒板などの大型提示装置に映し出して使用します。
○音源や動画などさまざまなコンテンツの充実や、動作速度の向上により、授業で使いやすくなります。
● 教科書使用期間版　各学年（本体70,000円＋消費税）
● １年間版　各学年（本体20,000円＋消費税）

学習者用デジタル教科書
［１人１ライセンス］
○児童一人一人がタブレット端末（学習者用コンピュータ）で使用します。教育課程の一部において、通常の紙の教科書に代えて使用できます。
○読み上げ機能、白黒反転表示機能、総ルビ機能により、特別な配慮を必要とする児童の学習上の困難を低減することができます。
○「学習者用デジタル教科書」には、音源や動画などのコンテンツは含まれておりません。
● １年間版　各学年（本体900円＋消費税）※購入年度末までの使用

総ルビ機能の例